

平成 22 年度利子助成交付対象者の経営状況と投資内容

(注) 平成 23 年 3 月に公表した平成 22 年度(前半)を年度値に修正した。

平成 23 年 8 月

(財) 農林水産長期金融協会

当協会が実施した『平成 22 年度農業経営基盤強化資金利子助成金等交付事業』により交付を決定した利子助成対象者の経営状況と投資内容を把握分析した。

利子助成事業の事業効果として、農業者の自主性と創意工夫を活かした経営改善を促進する利子助成の内容を明らかにし、本事業の的確かつ効果的な運営に資することを目的としている。

要旨

平成 19 年度から平成 21 年度までの 3 年間、認定農業者が借り入れる農業近代化資金とスーパー L 資金を対象として融資全期間の無利子化措置が実施され、平成 22 年度には貸付当初 5 年間に限った無利子化措置に変更されたが、この間の利子助成対象者の投資動向と無利子化措置の影響は次のとおり。

19 年度から 21 年度に導入された無利子化措置で利子助成交付決定件数は倍増し、農業機械の更新需要などに十分応えてきた。このため、22 年度は農家の投資が激減するとの見方もあった。

しかし、22 年度の 5 年間の無利子化措置は、農家の投資意欲に応えるものであった。農業近代化資金は無利子化措置の始まる前の 18 年度の件数を大きく超えており、L 資金はこれまでの有利子資金が利子助成対象ではなくなったが、無利子資金分の利子助成件数は増加するなど引き続き資金需要は高かった。22 年度の措置も農家の経営改善意欲と規模拡大に応え、農家の経費負担減に大きく貢献した。

投資目的の動向については、21 年度までの無利子化措置導入下ではほとんどの資金使途で大きく増加し、特に著しかったのは更新期と重なった農業機械の購入であった。

22 年度も農業機械の割合が高く(L 資金ではコンバインからトラクターに重点が変わった)、このほか、農業近代化資金では家畜の購入が増え、建物・施設が減り、L 資金では個人は農地取得が多く、法人は建物・施設が減り、「その他：飼料代、短期運転資金、苗代等」が増えた。

5 年間無利子に変更された影響については、個人経営では平均借入額が若干低下した程度であったが、法人経営では L 資金の平均借入額が大きく減少し、かつ投資期間の短い家畜購入の平均借入額が上昇した一方、投資期間の長い建物・施設等の平均投資額が低下するなど、借入額の大きな法人経営では投資額や投資期間に影響が生じたと見られる。

個人、法人ともに売上規模の大きな利子助成対象者が増加している。

主食用米生産に係わる利子助成は、「米戸別所得補償モデル事業」の参加者は無利子、参加していない場合は有利子となったが、「モデル事業」に参加し無利子の適用を受けた者は無利子資金借入者全体の約 3 割、稲作農家の無利子資金借入農家の約 9 割を占める。資金使途としては農機具取得と農地取得が多く、主食用米の生産拡大と経営改善に貢献した。

目次

概要（19～21年度の無利子化措置との比較）

1	利子助成交付決定件数の動き	1
2	借入額別割合	1
3	資金使途別割合	2
4	経営部門別割合	3
5	農業経営規模別割合	5

平成22年度利子助成交付対象者の経営状況と投資内容

1	農業近代化資金の投資内容（米戸別所得補償モデル事業関連利子助成）	6
2	スーパーL資金の投資内容（米戸別所得補償モデル事業関連利子助成）	10
3	資金使途と経営部門の関係	
（1）	農業近代化資金	13
（2）	スーパーL資金	14
4	建物・施設の取得及び農機具の取得の内訳	
（1）	農業近代化資金	15
（2）	スーパーL資金	17
	（資料）本分析における資金使途の例示	19

（注）分析データの取り方

平成22年度の利子助成交付対象者の経営改善資金計画書のデータである。

経営改善資金計画書に記載のない場合は不明としたため項目ごとの合計値は異なる（特に、簡素化様式では記載されていない項目がある）。

同一の借入時に複数の資金使途（投資目的）がある場合は、最も大きな借入金の投資目的を採用した。

例えば、1回の借入で土地改良、農機具取得等複数の投資目的を達成した場合で、最も大きな投資金額が農機具取得であれば、資金使途は農機具取得をとした。

22年度については、スーパーL資金の利子助成対象は500万円超の5年間無利子化措置に限られたが、他の申請案件と併せて500万円超になる場合は認定されるため、500万円以下のケースも1件として計上した。

農業近代化資金の無利子資金も本来500万円超に限られるが、同様に取り扱った。

概要（19年度から21年度までの無利子化措置との比較を中心に）

1. 利子助成交付決定件数の動き

・利子助成交付決定件数は無利子化措置導入により、19年度に倍増した。

22年度は無利子化期間が貸付当初5年間に限定されたが、引き続き根強い資金需要があった。

農業近代化資金では、無利子は前年度の無利子と省エネの合計と比較して1割程度減少したものの有利子は増加した。L資金は有利子が利子助成対象ではなくなったが、無利子では増加し、両資金ともに農家の規模拡大と経営改善意欲に応えた。

第1表 利子助成交付決定件数（上段：件）及び金額（下段：億円）

	農業近代化資金				L資金				合計		
	無利子	省エネ	有利子	合計	無利子	省エネ	有利子	合計	無利子	有利子	合計
18			3089	3089			2343	2343		5432	5432
19	2642		1966	4608	4912		770	5682	7554	2736	10290
20	2771	103	1550	4424	4346	1138	968	6452	8358	2518	10876
21	1080	1114	1801	3995	1317	1533	1389	4239	5044	3190	8234
	97	98	52	246	218	279	256	753	691	308	1000
22	1954	-	1871	3825	3309	-	-	3309	5263	1871	7134
	182	-	51	232	834	-	-	834	1015	51	1066

2. 借入額別割合

・個人経営では、農業近代化資金は有利子資金である「5百万円以下」が増加し、L資金は「5百万円以下」の有利子資金が利子助成対象から外れたため「5百超～1千万円以下」が大きく増加した。

法人経営では、L資金の高額借入者層の割合が19～21年度より低下した。

第2表 借入額別件数割合

借入額別 件数割合	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	19～21	22	19～21	22	19～21	22	19～21	22
（割合）	100	100	100	100	100	100	100	100
5百万円以下	45	53	17	2	20	25	5	1
5百超～1千	42	36	42	57	45	42	21	30
1千超～2千	13	12	24	25	22	17	19	24
2千超～3千			7	7	7	7	11	11
3千超～4千			4	3	7	10	7	4
4千超～5千			2	2			8	6
5千超～1億			3	4			13	10
1億円超			1	0			16	14

（注）22年度のL資金に「5百万円以下」があるのは、他の申請案件と併せて500万円超になる場合は無利子と認定されるため、500万円以下のケースも1件として計上したため

3. 資金使途別件数割合

- ・件数割合でみると、個人では農業近代化資金は農機具取得、L資金は農地取得が半数を占めるなど大きな変化はない。しいて言えば、農業近代化資金で建物・施設の取得が減少し、家畜の購入が増えた。法人では、両資金とも建物・施設の割合が減り、農業近代化資金は家畜の購入、L資金はその他（飼料代、短期運転資金、苗代等）の割合が増加した。
- ・平均借入額でみると、個人ではほぼ前年並みとなり、特徴的なところでは近代化資金は家畜の購入だけが上昇し、L資金は建物・施設の取得が低下した。法人では、農業近代化資金は家畜の購入が大きく上昇し全体では微増であったが、L資金は500万円超に限定されたにもかかわらず全体で大きく低下した。特に、建物・施設と農地取得の平均借入額が低下している。
- ・借入額割合でみると、個人は、農業近代化資金で農機具取得、建物・施設、家畜の購入が多く、L資金で建物・施設、農地取得が多い。法人は建物・施設が半数を占めるが、その割合は低下し、家畜の購入が増加した。

第3表 資金使途別件数割合

資金使途別 件数割合	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	19～21	22	19～21	22	19～21	22	19～21	22
土地改良	1	1	1	0	0	1	1	0
建物・施設	35	32	23	22	35	29	43	33
農機具取得	49	50	15	16	51	53	15	12
運搬用機具	4	5	0	0	1	2	0	0
果樹等の植栽	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	8	10	5	5	6	9	9	9
長期運転資金	2	2	3	2	1	1	6	2
農地取得	0	0	47	44	0	0	15	16
その他	2	1	6	11	5	5	12	28

第4表 資金使途別平均借入額(万円)、借入額割合（平成20、21年度の平均との比較）

個人経営 資金使途別 平均借入額	H20、21の平均				H22			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合
全体	573	100	1452	100	536	100	1456	100
土地改良	422	0.4	754	0.2	173	0.2	606	0.1
建物・施設の取得	682	42.3	2512	38.7	545	32.7	2388	36.1
農機具取得	504	43.6	774	8.1	465	43.5	868	9.6
運搬用機具の取得	220	1.4	500	0.1	195	1.7	583	0.1
果樹等の植栽育成	0	0	800	0.0	175	0.0	0	0.0
家畜の購入	757	7.9	2355	6.7	1081	19.4	2036	6.5
長期運転資金	620	2.5	991	1.5	586	1.9	1161	1.5
農地取得	0	0	1171	39.2	0	0.0	1145	34.9
その他	466	1.7	1180	5.4	330	0.7	1545	11.3

法人経営 資金使途別 平均借入額	H20、21の平均				H22			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合	平均 借入額	借入額 割合
全体	1104	100	6617	100	1143	100	5110	100
土地改良	627	0.2	3657	0.3	1121	0.7	380	0.0
建物・施設の取得	1445	47.7	10229	65.7	1594	40.9	8204	52.6
農機具取得	777	34.1	2553	5.9	747	34.5	1276	3.0
運搬用機具の取得	709	1.0	1207	0	514	0.9	637	0.0
果樹等の植栽育成	0	0	880	0	0	0	2000	0.0
家畜の購入	1572	8.5	7888	8.2	2124	16.6	7981	13.6
長期運転資金	1428	1.7	4234	2.1	1229	1.2	5304	2.2
農地取得	0	0	2727	6.4	0	0	1861	5.7
その他	1256	6.2	4762	11.2	1216	5.2	4158	22.7

4. 経営部門別割合

・農業近代化資金は耕種部門、L資金は法人を中心に畜産部門の割合が高いことはこれまでと同じ。

農業近代化資金では、これまで同様、個人は施設野菜と稲作が多く、法人は稲作が多い。

L資金では、個人は稲作の割合は高く、好調な酪農は増加し、法人はこれまで好調であった養豚が減少し、酪農、肉用牛肥育が増加した。

第5表 経営部門別件数割合

経営部門別 件数割合	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	19~21	22	19~21	22	19~21	22	19~21	22
稲作	22	21	31	31	40	42	21	19
畑作	5	5	8	9	6	6	4	5
露地野菜	11	12	12	12	6	6	7	7
施設野菜	21	23	6	6	6	9	5	6
露地果樹	5	5	4	3	2	1	2	3
施設花き	7	7	5	5	5	3	3	3
工芸作物	8	3	4	1	4	0	3	0
茶	-	3	-	1	-	5	-	1
酪農	8	7	16	17	8	7	10	13
肉用牛肥育	5	9	6	6	5	8	11	14
肉用牛繁殖	5	3	3	2	1	1	1	1
養豚	1	0	2	2	4	2	14	9
採卵鶏	0	0	0	1	2	1	7	6
鶏肉	0	0	1	1	1	0	3	4
きのこ	1	1	1	0	5	3	3	4
その他	2	1	2	2	5	6	8	7

(注) 19~21の茶は工芸作物に含まれる。以下、同じ。

- ・平均借入額については、個人経営では、近代化資金は肉用牛肥育が上昇した以外はすべて低下し、L資金は養豚が低下し、全体で前年度並みとなった。
法人経営では、L資金の平均借入額は大きく低下し、採卵鶏、鶏肉は低下したものの高額であることには変わりはない。きのこも半減した。
- ・借入額割合では、稲作が依然大きな割合を占め、個人は両資金ともに22%を占め、法人は農業近代化資金で28%、L資金で5%を占める。
このほか、個人は農業近代化資金で肉用牛肥育、L資金で酪農の割合が増加した。法人は、農業近代化資金では借入件数、平均借入額ともに増加した肉用牛肥育、L資金では借入件数が増加した酪農、肉用牛肥育の借入額割合が増加した。

第6表 経営部門別平均借入額(万円)、借入額割合 (平成20、21年度の平均との比較)

個人経営 平均借入額	H20、21の平均				H22			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合
全体	573	100	1452	100	536	100	1456	100
稲作	612	24.6	1143	25.2	567	22.4	1034	22.0
畑作	631	5.4	1248	7.1	627	5.6	1233	7.6
露地野菜	488	9.1	1013	8.0	450	10.1	1092	8.5
施設野菜	493	18.4	1269	5.1	378	16.1	1226	5.2
露地果樹	452	3.9	855	2.4	343	2.9	982	1.9
施設花き	566	6.8	1289	4.1	476	5.9	1300	4.1
工芸作物	469	6.4	1054	2.7	309	1.8	985	0.9
茶	-	-	-	-	366	2.1	1630	1.0
酪農	703	8.8	2301	22.9	749	9.2	2142	25.5
肉用牛肥育	873	5.3	2705	9.8	1130	18.1	2731	11.4
肉用牛繁殖	644	5.6	1413	2.7	465	2.6	956	1.4
養豚	864	1.2	2765	3.9	793	0.5	2100	3.3
採卵鶏	805	0.3	3146	0.9	755	0.2	3600	1.3
鶏肉	824	0.4	3338	1.6	534	0.3	2819	1.6
きのこ	729	1.2	1036	0.4	454	0.7	3417	1.0
その他	514	2.1	1049	1.5	398	0.9	1373	2.2

法人経営 平均借入額	H20、21の平均				H22			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合	平均借入額	借入額割合
全体	1104	100	6617	100	1143	100	5110	100
稲作	862	30.2	1870	5.4	764	27.9	1419	4.9
畑作	909	4.5	3546	1.9	893	4.4	2277	2.1
露地野菜	914	5.3	3619	3.4	803	4.1	2318	2.8
施設野菜	1360	7.1	3638	2.1	1204	9.0	4016	4.3
露地果樹	676	1.3	1866	0.6	952	0.7	1992	1.0
施設花き	1034	4.5	2520	1.1	1342	3.9	2344	1.1
工芸作物	975	3.1	5493	1.9	710	0.3	1066	0.1
茶	-	-	-	-	1169	5.0	3260	0.5
酪農	1259	8.4	6030	8.2	1397	7.9	5549	13.5
肉用牛肥育	1738	7.8	9137	12.4	2201	15.5	7698	19.1
肉用牛繁殖	1214	1.4	2763	0.3	1952	1.5	4372	0.6
養豚	1717	7.1	9097	18.6	2237	3.1	8514	13.6
採卵鶏	1478	1.8	13955	11.8	2004	2.0	10029	10.3
鶏肉	2895	1.8	13529	5.1	1425	0.6	10749	7.2
きのこ	1825	7.6	12861	6.9	1763	4.5	6606	4.4
その他	1021	3.8	10614	6.3	1577	8.6	4304	5.8

5 売上規模別割合

- ・農業近代化資金、L資金ともに売上規模の大きな農家が増加しているが、特に、法人の売上規模1億円以上は農業近代化資金で34%、L資金で56%に達する。

第7表 借入者の売上規模（農業粗収入・売上高）別件数割合

売上高別 件数割合	個人経営				法人経営			
	農業近代化資金		L資金		農業近代化資金		L資金	
	19~21	22	19~21	22	19~21	22	19~21	22
1千万円未	23	23	14	9	8	5	4	3
1千~2千	32	30	23	17	10	9	4	4
2千~3千	19	18	20	20	12	7	5	4
3千~4千	10	9	14	15	11	10	6	4
4千~5千	6	6	9	11	9	12	6	6
5千~1億円	8	10	13	19	25	24	19	23
1億~2億円	2	3	5	8	14	20	20	18
2億円以上	0	1	2	3	10	14	35	38

平成 22 年度利子助成交付対象者の経営状況と投資内容

1. 農業近代化資金の投資内容

借入額別動向

- ・個人は有利子である「5 百万円以下」が増加したものの、法人は「5 百万円超～1 千万円以下」が多い。

第 1 - 1 表 農業近代化資金：H22 借入額別件数割合

借入額別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	無利子	有利子	合計	無利子	有利子	合計	無利子	有利子	全体計
H22件数	1627	1743	3370	319	128	447	1946	1871	3817
割合	48	52	100	71	29	100	51	49	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
5百万円以下	5	98	53	4	77	25	5	96	49
5百万円超～1千	72	2	36	53	13	42	69	3	36
1千万円超～2千	24	1	12	22	6	17	23	1	12
2千万円超～3千				9	2	7	1	0	1
3千万円超～4千				13	2	10	2	0	1

(注) 2 件以上で 500 万円超になる場合は無利子と認定されるため、無利子でも「5 百万円以下」を計上した。

資金使途別動向

- ・前年度までと同様、個人、法人ともにトラクター、コンバイン等の農機具取得が半数を占め、残りはほとんどが建物・施設の取得である。無利子では家畜の購入が多い。

第 1 - 2 表 農業近代化資金：H22 資金使途別件数割合

資金使途別 件数割合	個人経営			法人経営			全体		
	無利子	有利子	合計	無利子	有利子	合計	無利子	有利子	合計
H22件数	1627	1743	3370	319	127	446	1946	1870	3816
割合	48	52	100	72	28	100	51	49	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100	100	100
土地改良	0	1	1	1	0	1	0	1	1
建物・施設取得	32	32	32	30	28	29	32	32	32
農機具取得	46	54	50	49	64	53	47	54	50
運搬用機具取得	1	8	5	2	3	2	1	8	4
果樹等植栽育成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	17	2	10	12	2	9	16	2	10
長期運転資金	3	1	2	1	1	1	2	1	2
農地取得	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	1	1	1	6	2	5	2	2	2

- ・資金使途別平均借入額は、無利子では個人、法人ともに家畜の購入が最も高く、借入額割合も大きくなったが、全体での借入額割合は、件数の多い農機具取得の借入額割合が 41.5% と高く、次いで建物・施設の取得が多い。

第1-3表 農業近代化資金：H22資金用途別平均借入額（千円）と借入額割合

資金用途別 平均借入額 借入額割合	個人経営				法人経営				全体	
	無利子		有利子		無利子		有利子			
	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合
全体	8402	100	2518	100	13875	100	5343	100	6070	100
土地改良	3400	0.0	1532	0.6	11214	0.8	0	0	3022	0.3
建物施設取得	8606	33.0	2491	31.8	18974	40.7	7915	41.7	6578	34.5
農機具取得	7103	39.1	2675	57.2	8996	31.5	4537	53.7	4991	41.5
運搬機具取得	6565	0.6	1559	5.0	6617	0.7	3283	1.9	2125	1.5
果樹植栽育成	0	0	1750	0.1	0	0	0	0	1750	0
家畜の購入	11929	24.6	3270	3.1	22195	19.1	3000	0.9	11953	18.8
長期運転資金	7221	2.2	2382	0.9	14870	1.3	1950	0.3	6381	1.7
農地取得	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	5191	0.5	2287	1.4	13657	5.9	2707	1.2	6448	1.7

経営部門別動向

- ・無利子では農機具取得の多い稲作の割合が高いものの、酪農、肉用牛肥育が前年度より増加し、有利子では温室・ハウスの多い施設野菜の割合が高い。耕種部門(稲作から茶まで)が多く、件数割合は80%を占めるが、平均借入額が法人で畜産の半分なため借入額割合では65%になる。

第1-4表 農業近代化資金：H22経営部門別件数割合

経営部門別 件数割合	個人経営		法人経営		全体		全体合計
	無利子	有利子	無利子	有利子	無利子	有利子	
H22件数	1618	1741	316	127	1934	1868	3802
割合	48	52	71	29	51	49	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100
稲作	26	17	38	52	28	19	24
畑作	7	3	7	3	7	3	5
露地野菜	10	14	5	7	9	14	11
施設野菜	15	30	7	12	14	29	21
露地果樹	2	7	1	2	2	6	4
施設花き	6	8	3	4	5	7	6
工芸作物	1	5	0	1	1	5	3
茶	2	4	4	6	2	5	3
酪農	10	3	8	4	10	3	7
肉用牛肥育	16	2	11	0	15	1	9
肉用牛繁殖	3	3	1	0	2	3	3
養豚	1	0	2	1	1	0	0
採卵鶏	0	0	1	2	0	0	0
鶏肉	0	0	0	1	0	0	0
きのこ	1	1	4	1	1	1	1
その他	1	2	7	6	2	2	2

第1-5表 農業近代化資金：H22経営部門別平均借入額（千円）と借入額割合

経営部門別 平均借入額 借入額割合	個人経営				法人経営				全体	
	無利子		有利子		無利子		有利子			
	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合	借入額	割合
全体	8402	100	2518	100	13875	100	5343	100	6070	100
稲作	7461	22.8	3139	21.2	9319	25.5	4547	43.9	6076	23.6
畑作	7555	6.4	3017	3.2	9701	4.6	4893	2.9	6622	5.3
露地野菜	7538	8.8	2521	14.1	10066	3.9	4187	5.5	4711	8.8
施設野菜	7253	13.3	2107	25.0	15121	7.9	7307	16.0	4166	14.5
露地果樹	8061	2.2	1977	5.3	14500	0.7	4545	1.3	3583	2.5
施設花き	8437	5.5	2341	7.2	14221	3.2	11820	8.6	5307	5.5
工芸作物	7077	0.7	2474	5.1	5900	0.1	8300	1.2	3162	1.5
茶	7774	1.5	2210	3.9	15176	4.8	5593	6.5	5058	2.8
酪農	8783	10.5	3846	5.1	16046	8.7	4020	2.9	8241	8.9
肉用牛肥育	12141	23.3	3381	2.2	22011	17.9	0	0	12478	17.6
肉用牛繁殖	7652	2.3	2570	3.5	19523	1.8	0	0	5225	2.3
養豚	9531	0.6	3130	0.2	24433	3.3	10000	1.5	13251	1.1
採卵鶏	10517	0.2	3100	0.1	30833	2.1	3860	1.1	13797	0.6
鶏肉	8744	0.3	3214	0.6	25000	0.6	3500	0.5	6529	0.4
きのこ	7532	0.5	3117	1.3	18246	4.9	10280	1.5	8689	1.5
その他	8017	0.9	2251	1.8	19027	9.0	5981	6.1	8211	2.8

農業粗収入規模別動向

- 個人では1千万台が最も多いものの、「1千万円未満」の小規模農家の資金需要もかなり高い。個人では無利子の農業粗収入の中間点が2千万円台、有利子は1千万円台、法人では無利子が「5千～1億未満」、有利子が4千万台にあり、借入金額の大きい無利子の方が1ランク売上規模が上位にある。

第1-6表 農業近代化資金：H22農業粗収入別件数割合

農業粗収入別 件数割合	個人経営		法人経営		全体		
	無利子	有利子	無利子	有利子	無利子	有利子	全体合計
H22件数	1585	1731	269	100	1854	1831	3685
割合	48	52	73	27	50	50	100
(割合)	100	100	100	100	100	100	100
1千万円未満	15	30	3	10	14	29	21
1千～2千万未満	22	37	8	12	20	35	28
2千～3千万未満	17	19	6	11	15	19	17
3千～4千万未満	11	7	9	12	11	7	9
4千～5千万未満	10	3	12	11	10	4	7
5千～1億未満	18	3	25	19	19	4	12
1億～2億円未満	6	1	20	18	8	2	5
2億円以上	1	0	16	7	3	0	2

主食用米生産に関する利子助成

- ・主食用米生産に係わる利子助成は、「米戸別所得補償モデル事業」の参加者は無利子、参加していない場合は有利子となったが、「モデル事業」に参加し無利子の適用を受けた者は無利子資金借入者全体の32%、無利子資金借入稲作農家の91%（残りの9%は主食用米生産以外の投資）。
- ・経営形態別には稲作主体農家が80%を占め、残り20%は畑作主体農家等が「米戸別所得補償モデル事業」に参加し、主食用米生産で無利子の適用を受けたケース。

第1-7表 農業近代化資金：H22 主食用米生産で無利子の適用を受けた者

経営形態別	個人経営		法人経営		全体			
	無利子	主食用米	無利子	主食用米	無利子 A	主食用米 B	割合	B/A
H22件数	1627	497	319	118	1946	615	100	32%
稲作	417	390	121	102	538	492	80	91
畑作	116	16	21	5	137	21	3	15
露地野菜	160	30	17	2	177	32	5	18
施設野菜	250	29	23	2	273	31	5	11
露地果樹	37	6	2	0	39	6	1	15
施設花き	89	4	10	1	99	5	1	5
工芸作物	14	1	1	0	15	1	0	7
茶	27	0	14	0	41	0	0	0
酪農	164	5	24	0	188	5	1	3
肉用牛肥育	262	9	36	1	298	10	2	3
肉用牛繁殖	41	4	4	0	45	4	1	9
養豚	9	0	6	0	15	0	0	0
採卵鶏	3	1	3	0	6	1	0	17
鶏肉	5	2	1	0	6	2	0	33
きのこ	9	0	12	0	21	0	0	0
その他	24	0	24	5	48	5	1	10

（注）経営形態の不明はその他に入れた。

- ・資金使途としては、件数割合で農機具取得が84%で、主食用米生産の経営改善に貢献している。

第1-8表 農業近代化資金：H22 主食用米生産で無利子の適用を受けた者

資金使途別	個人経営		法人経営		全体			
	無利子	主食用米	無利子	主食用米	無利子 A	主食用米 B	割合	B/A
H22件数	1627	497	319	118	1946	615	100	32%
土地改良	2	0	3	0	5	0	0	0
建物・施設取得	524	65	95	22	619	87	14	14
農機具取得	752	427	155	90	907	517	84	57
運搬用機具取得	12	2	5	2	17	4	1	24
果樹等植栽育成	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	282	2	38	1	320	3	0	1
長期運転資金	41	1	4	0	45	1	0	2
農地取得	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	14	0	19	3	33	3	0	9

2 スーパーL資金の投資内容

借入額別動向

- 個人、法人ともに「5百万円超～1千」が最も多く、法人では、高額投資は割合的には前年度より減少したが依然多い。

第2-1表 L資金：H22借入額別件数割合

借入額別件数割合	個人経営	法人経営	全体
H22件数	2202	931	3133
(割合)	100	100	100
5百万円以下	2	1	2
5百超～1千万円以下	57	30	49
1千超～2千万円以下	25	24	25
2千超～3千万円以下	7	11	9
3千超～4千万円以下	3	4	3
4千超～5千万円以下	2	6	3
5千超～1億円以下	4	10	6
1億円超	0	14	4

(注)他の申請案件と併せて500万円超になる場合は認定されるため「5百万円以下」も計上した。

資金用途別動向

- 件数割合では、個人は農地取得が4割で規模拡大に貢献しており、法人は建物・施設が多い。
- 平均借入額については、建物・施設は前年度より低下したが、個人、法人ともに最も高く、家畜の購入がこれに次いで高い。
- 借入額割合については、個人は農地の平均借入額が比較的低位のため建物・施設の方が高くなり、法人では建物・施設が半数以上を占め、全体でも建物・施設が半数近くを占める。

第2-2表 L資金：H22資金用途別件数割合、平均借入額(千円)、借入額割合

件数割合 平均借入額 借入額割合	個人経営			法人経営			全体		
	件数 割合	平均 借入額	借入額 割合	件数 割合	平均 借入額	借入額 割合	件数 割合	平均 借入額	借入額 割合
全体	100%	14559	100%	100%	51099	100%	100%	25417	100%
土地改良	0	6060	0.1	0	3803	0	0	5778	0.1
建物・施設取得	22	23881	36.1	33	82037	52.6	25	46362	45.9
農機具取得	16	8684	9.6	12	12755	3.0	15	9672	5.7
運搬用機具取得	0	5833	0.1	0	6367	0	0	6100	0
果樹等植栽育成	0	0	0	0	20000	0	0	20000	0
家畜の購入	5	20356	6.5	9	79806	13.6	6	46527	10.8
長期運転資金	2	11605	1.5	2	53040	2.2	2	24971	1.9
農地取得	44	11451	34.9	16	18611	5.7	36	12383	17.4
その他	11	15449	11.3	28	41577	22.7	16	29200	18.1

経営部門別動向

- ・ L資金は畜産の割合が高く、件数割合で34%であるが、借入額割合では56%を占める。
- ・ 件数割合では、個人は稲作、酪農が依然多いものの、法人は酪農と他の畜産が多くなる。
- ・ 平均借入額では、採卵鶏、鶏肉、肉用牛肥育など畜産で個人、法人ともかなり大きいため、借入額割合に占める畜産の割合は高くなり、特に好調な酪農が最も高い。

第2 - 3表 L資金：H22経営部門別平均借入額（千円）と借入額割合

件数割合 平均借入額 借入額割合	個人経営			法人経営			全体		
	件数 割合	平均 借入額	借入額 割合	件数 割合	平均 借入額	借入額 割合	件数 割合	平均 借入額	借入額 割合
全体	100%	14559	100%	100%	51099	100%	100%	25417	100%
稲作	31	10343	22.0	19	14191	4.9	28	11093	11.8
畑作	9	12326	7.6	5	22772	2.1	8	14198	4.3
露地野菜	11	10920	8.5	7	23178	2.8	10	13196	5.1
施設野菜	6	12264	5.2	6	40160	4.3	6	19831	4.7
露地果樹	3	9818	1.9	3	19916	1.0	3	12669	1.4
施設花き	5	13002	4.1	3	23436	1.1	4	14953	2.3
工芸作物	1	9848	0.9	0	10660	0.1	1	9926	0.4
茶	1	16301	1.0	1	32600	0.5	1	20958	0.7
酪農	18	21417	25.5	13	55488	13.5	16	29369	18.3
肉用牛肥育	6	27310	11.4	14	76983	19.1	8	50569	16.0
肉用牛繁殖	2	9564	1.4	1	43717	0.6	2	13431	0.9
養豚	2	20998	3.3	9	85136	13.6	4	59684	9.4
採卵鶏	1	36004	1.3	6	100286	10.3	2	87640	6.7
鶏肉	1	28194	1.6	4	107489	7.2	2	78943	5.0
きのこ	0	34168	1.0	4	66056	4.4	1	59056	3.0
その他	2	13730	2.2	7	43035	5.8	4	30039	4.3

売上高別動向

- ・ L資金の売上規模は農業近代化資金より1ランク上位にある。個人は売上高の中間点が「3千～4千万円未満」、法人は「1億～2億万円未満」にあり、法人は1億円以上が半数を占める。

第2 - 4表 L資金：H22売上高件数割合

売上高別件数割合	個人経営	法人経営	全体
H22件数	2180	849	3029
(割合)	100	100	100
1千万円未満	9	3	7
1千～2千万円未満	17	4	13
2千～3千万円未満	20	4	15
3千～4千万円未満	15	4	12
4千～5千万円未満	11	6	9
5千～1億万円未満	19	23	20
1億～2億万円未満	8	18	11
2億万円以上	3	38	13

主食用米生産に関する利子助成

- ・「米戸別所得補償モデル事業」に参加し、主食用米生産で無利子の適用を受けた者は無利子資金借入者全体の28%、無利子資金借入稲作農家の86%を占める（残りの14%は主食用米生産以外の投資）。経営形態別には稲作主体農家が83%を占め、残り17%は畑作主体農家等が「米戸別所得補償モデル事業」に参加し、主食用米生産で無利子の適用を受けたケース。

第2-5表 L資金：H22 主食用米生産で無利子の適用を受けた者

経営形態別	個人経営		法人経営		全体			
	無利子	主食用米	無利子	主食用米	無利子A	主食用米B	割合	B/A
H22件数	2202	731	931	151	3133	882	100	28%
稲作	682	605	165	125	847	730	83	86
畑作	197	21	43	3	240	24	3	10
露地野菜	250	43	57	6	307	49	6	16
施設野菜	137	17	51	5	188	22	2	12
露地果樹	61	5	24	0	85	5	1	6
施設花き	100	6	23	0	123	6	1	5
工芸作物	28	7	3	0	31	7	1	23
茶	20	0	8	0	28	0	0	0
酪農	381	4	116	2	497	6	1	1
肉用牛肥育	134	6	118	0	252	6	1	2
肉用牛繁殖	47	4	6	0	53	4	0	8
養豚	50	4	76	0	126	4	0	3
採卵鶏	12	0	49	0	61	0	0	0
鶏肉	18	0	32	0	50	0	0	0
きのこ	9	0	32	1	41	1	0	2
その他	76	9	128	9	204	18	2	9

(注) 経営形態の不明はその他に入れた。

- ・資金使途としては、件数割合で農地取得が58%、農機具取得が31%で、主食用米生産の規模拡大と経営改善に貢献した。

第2-6表 L資金：H22 主食用米生産で無利子の適用を受けた者

資金使途別	個人経営		法人経営		全体			
	無利子	主食用米	無利子	主食用米	無利子A	主食用米B	割合	B/A
H22件数	2202	731	931	151	3133	882	100	28%
土地改良	7	0	1	0	8	0	0	0
建物・施設取得	484	60	305	24	789	84	10	11
農機具取得	353	210	113	67	466	277	31	59
運搬用機具取得	3	1	3	1	6	2	0	33
果樹等植栽育成	0	0	1	0	1	0	0	0
家畜の購入	103	0	81	0	184	0	0	0
長期運転資金	42	0	20	2	692	2	0	0
農地取得	976	455	146	53	1122	508	58	45
その他	234	5	261	4	495	9	1	2

3 資金使途と経営部門の関係

(1) 農業近代化資金

ア 個人経営

- ・最も多いのは農機具取得で、稲作、露地野菜等のコンバイン、トラクターが中心となっている。建物・施設は施設野菜、施設花きの温室・ビニールハウスとその付帯設備が多い。なお、施設野菜の長期運転資金はハウスのレンタル料の一括払いが多い。
- 家畜の購入は肉用牛肥育で多い。

第3-1表 農業近代化資金(個人経営): H22 資金使途別経営部門: 実数

個人経営 資金使途 件数	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
土地改良	1	0	2	3	3	6	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	18
建物・施設	91	19	72	457	62	157	15	49	57	14	29	7	1	4	14	30	1,078
農機具取得	604	143	301	194	66	38	83	49	104	25	50	4	3	9	4	13	1,690
運搬用機具	12	0	28	58	19	9	6	3	1	2	5	1	0	0	5	5	154
果樹等植栽	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
家畜の購入	1	0	1	0	0	0	1	1	59	247	12	0	0	0	0	0	322
長期資金	2	0	0	50	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	56
農地取得	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	2	0	2	8	3	11	0	1	0	2	3	0	1	0	5	1	39
合計	713	162	406	770	155	224	105	104	222	290	100	12	5	13	28	50	3359

イ 法人経営

- ・法人経営でも稲作の農機具取得が最も多く、建物・施設は稲作と施設野菜が多い。
- 耕種部門が中心であるのは個人と同じであるが、法人はきのこ施設のウェイトが個人より高い。

第3-2表 農業近代化資金(法人経営): H22 資金使途別経営部門: 実数

法人経営 資金使途 件数	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
土地改良	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	3
建物・施設	35	4	3	22	4	8	0	5	6	6	3	6	0	1	8	19	130
農機具取得	142	21	21	7	0	3	2	17	9	2	0	0	0	1	3	7	235
運搬用機具	2	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	9
果樹等植栽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	0	0	0	0	0	0	0	0	14	25	0	0	1	0	0	0	40
長期運転資金	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	4
農地取得	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
その他	7	0	0	2	0	4	0	0	0	3	0	0	2	0	2	2	22
合計	187	25	26	38	4	15	2	22	29	36	4	7	5	2	13	28	443

(2) スーパーL資金

ア 個人経営

・資金使途別にみると、農地取得が4割を占め、その多くが稲作である。畑作はほとんどが農地取得であり、露地野菜、酪農でも農地取得が多い。

建物・施設は21年に経営が回復した酪農が多い。農機具取得では稲作が多く、半数を占める。

第3-3表 L資金(個人経営): H22 資金使途別経営部門: 実数

個人経営 資金使途 件数	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
土地改良	0	0	2	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6
建物・施設	60	10	31	77	20	50	4	6	135	16	7	14	5	10	8	17	470
農機具取得	196	23	41	8	5	3	0	5	50	9	2	3	0	0	0	7	352
運搬用機具	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
果樹等植栽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家畜の購入	1	0	0	0	0	0	0	0	37	51	9	3	0	0	0	2	103
長期運転資金	6	2	5	5	5	7	0	1	3	4	2	0	0	2	0	0	42
農地取得	395	157	157	31	20	14	22	7	124	8	13	5	0	0	0	17	970
その他	24	5	11	15	10	26	2	1	31	46	13	25	7	6	1	8	231
合計	682	197	250	137	61	100	28	20	381	134	47	50	12	18	9	51	2177

イ 法人経営

・資金使途別では、建物・施設が最も多く、酪農をはじめ畜産部門で多い。

農地取得は法人では少ないものの、稲作、畑作、露地野菜、酪農で多いのは個人と同じ傾向を示している。

資金使途の「その他」は、飼料代、短期運転資金、苗代が多い(個人でも同じ)。

経営分類の「その他」が多いのは、加工、受託作業のために設立された法人が多いため。

第3-4表 L資金(法人経営): H22 資金使途別経営部門: 実数

法人経営 資金使途 件数	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
土地改良	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
建物・施設	28	5	12	23	5	12	0	2	48	26	2	33	20	22	14	19	271
農機具取得	54	9	12	6	1	0	1	2	9	0	0	1	1	0	0	8	104
運搬用機具	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	3
果樹等植栽	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
家畜の購入	0	0	0	0	0	0	0	0	17	52	1	1	5	0	0	3	79
長期運転資金	4	0	1	2	0	0	0	0	2	4	0	1	1	1	0	1	17
農地取得	47	23	17	7	8	2	2	1	20	7	0	1	1	0	0	7	143
その他	31	6	15	13	10	8	0	2	20	29	2	39	21	9	18	25	248
合計	165	43	57	51	24	23	3	8	116	118	6	76	49	32	32	64	867

4 平成 22 年度建物・施設の取得及び農機具の取得の内訳

(1) 農業近代化資金

建物・施設の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

・建物・施設の取得の 6 割は温室・ハウスまたはその付属設備であり、そのほとんどが施設野菜、施設花きである。

次に多いのは農舎・倉庫で、稲作、露地野菜が多い。

畜舎は酪農で多いのは、これまでと同じ。

第 4 - 1 表 農業近代化資金（個人経営）：H22 建物・施設取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	41	10	32	22	11	7	1	1	3	1	1	0	0	0	0	2	132
畜舎	1	2	1	2	0	0	1	0	42	10	28	4	1	2	1	0	95
温室、ハウス	23	2	19	409	32	142	6	2	0	0	0	0	0	0	5	25	665
果樹棚	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
加工・作業所	12	2	3	13	9	3	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	46
貯蔵乾燥施設	13	3	8	5	2	2	3	0	2	1	0	0	0	0	0	1	40
糞尿処理施設	1	0	1	1	0	1	2	0	7	2	0	3	0	1	0	0	19
その他	0	0	8	5	7	2	0	45	2	0	0	0	0	1	8	2	80
合計	91	19	72	457	62	157	15	49	57	14	29	7	1	4	14	30	1078

イ 法人経営

・法人経営でも温室・ハウスが多く、施設野菜で多い。

なお、稲作は広範囲の建物・施設に投資されているため経営部門的には最も多い。

第 4 - 2 表 農業近代化資金（法人経営）：H22 建物・施設取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	9	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
畜舎	0	0	0	0	0	0	0	0	4	3	2	2	0	1	0	3	15
温室、ハウス	13	1	2	20	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	55
果樹棚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加工・作業所	8	0	1	1	1	0	0	2	0	0	0	1	0	0	1	6	21
貯蔵乾燥施設	4	1	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	9
糞尿処理施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	2	0	0	0	0	5
その他	1	0	0	1	0	0	0	3	0	0	0	1	0	0	7	1	14
合計	35	4	3	22	4	8	0	5	6	6	3	6	0	1	8	19	130

農機具取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

- ・農機具取得の中では、トラクターが最も多く、次いでコンバイン、収穫用農機具が多い。これら農業機械は稲作、露地野菜、施設野菜などの耕種部門で多い。酪農でのトラクターも多い。
- ・なお、高額なコンバインは前年度より100件以上減少した。

第4-3表 農業近代化資金（個人経営）：H22 農機具取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
トラクター	173	91	186	99	6	21	44	2	57	11	28	1	0	4	0	4	727
田植機	66	2	3	13	1	1	1	0	1	0	2	0	0	0	1	0	91
収穫用農機具	49	34	72	30	45	7	22	22	32	8	16	2	0	3	0	4	346
コンバイン	242	14	20	28	4	4	5	4	1	3	2	1	1	2	0	1	332
乾燥機	38	1	4	7	1	0	6	0	1	0	1	0	0	0	0	1	60
出荷用選別機	23	1	13	14	2	4	0	0	1	1	0	0	1	0	3	2	65
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	7	1	0	0	0	0	0	0	8
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
製茶機	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	20
その他	13	0	3	3	7	1	5	1	4	1	1	0	1	0	0	1	41
合計	604	143	301	194	66	38	83	49	104	25	50	4	3	9	4	13	1690

イ 法人経営

- ・法人でもコンバイン、トラクター、収穫用農機具が多く、稲作がこれらの半数以上を占める。

第4-4表 農業近代化資金（法人経営）：H22 農機具取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
トラクター	41	6	11	3	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3	67
田植機	9	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	11
収穫用農機具	20	6	7	1	0	0	1	6	8	1	0	0	0	0	0	3	53
コンバイン	60	8	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71
乾燥機	5	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
出荷用選別機	2	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	8
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
製茶機	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	9
その他	5	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1	10
合計	142	21	21	7	0	3	2	17	9	2	0	0	0	1	3	7	235

(2) スーパーL資金

建物・施設の取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

・建物・施設の取得の中では、畜舎と温室・ハウスが多い。特に、酪農の畜舎が最も多い。

第5-1表 L資金(個人経営): H22 建物・施設取得の内訳: 実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	28	6	17	5	6	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0	1	68
畜舎	4	0	0	0	0	0	0	0	114	15	6	11	4	10	0	0	164
温室、ハウス	10	2	8	67	10	48	0	0	1	0	0	0	0	0	0	11	157
果樹棚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加工・作業所	10	0	4	5	3	1	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	28
貯蔵乾燥施設	8	2	1	0	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	16
糞尿処理施設	0	0	0	0	0	0	0	0	9	0	0	2	0	0	0	2	13
その他	0	0	1	0	0	1	1	2	5	1	1	1	1	0	8	2	24
合計	60	10	31	77	20	50	4	6	135	16	7	14	5	10	8	17	470

イ 法人経営

・これまで建物・施設取得の半数を畜舎が占めていたが、22年度は減少した。これは、酪農で増加したものの、前年度最も多かった養豚、採卵鶏の畜舎が大きく減少したことによる。耕種部門ではこれまでと同様少ない。

第5-2表 L資金(法人経営): H22 建物・施設取得の内訳: 実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
農舎、倉庫	3	1	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	1	3	1	2	15
畜舎	1	1	0	0	0	0	0	0	32	20	1	23	18	18	0	5	119
温室、ハウス	6	1	4	18	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	46
果樹棚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
加工・作業所	5	0	3	2	4	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0	4	22
貯蔵乾燥施設	8	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	12
糞尿処理施設	2	0	0	0	0	0	0	0	9	1	0	5	0	0	0	0	17
その他	3	1	4	3	0	1	0	1	4	3	1	3	1	0	11	4	40
合計	28	5	12	23	5	12	0	2	48	26	2	33	20	22	14	19	271

農機具取得の経営部門別件数内訳

ア 個人経営

・農機具取得は全体で前年度より増加した。トラクターが大きく増え、これまで最も多かったコンバインは減少した。

経営部門別には、稲作が半数以上を占め、稲作以外では酪農、露地野菜が目立つ程度である。

第5 - 3表 L資金（個人経営）：H22 農機具取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
トラクター	67	17	27	4	0	1	0	0	28	7	2	1	0	0	0	4	158
田植機	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
収穫用農機具	10	4	8	0	3	1	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	37
コンバイン	96	2	2	3	2	1	0	0	0	2	0	1	0	0	0	1	110
乾燥機	7	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	9
出荷用選別機	3	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	6
製茶機	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4
その他	7	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0	1	11
合計	196	23	41	8	5	3	0	5	50	9	2	3	0	0	0	7	352

イ 法人経営

・法人は全体で前年度より減少した。

稲作のコンバイン、トラクターが多く、これ以外では露地野菜のトラクターが多い。

第5 - 4表 L資金（法人経営）：H22 農機具取得の内訳：実数

区分	稲作	畑作	露地野菜	施設野菜	露地果樹	施設花き	工芸作物	茶	酪農	肉用牛肥育	肉用牛繁殖	養豚	採卵鶏	鶏肉	きのこ	その他	全体
トラクター	15	3	7	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	30
田植機	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
収穫用農機具	3	3	4	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	2	15
コンバイン	26	1	0	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	32
乾燥機	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
出荷用選別機	2	0	0	3	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	9
給餌機	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
搾乳機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
製茶機	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	3	2	1	0	0	0	0	0	3	0	0	1	0	0	0	2	12
合計	54	9	12	6	1	0	1	2	9	0	0	1	1	0	0	8	104

(資料) 本分析における資金使途の例示 (農業近代化資金、L資金共通)

	資金使途	整備内容	主な例示
1	土地改良		農地造成、耕地整備、用排水施設整備、暗渠(布設工事)、灌水施設(ハウス外)
2	建物・施設の取得	農舎、倉庫	機械収納庫
		畜舎	畜舎内施設整備も含む(バークリーナー)
		温室、ハウス	温室内整備も含む(光合成促進機、育成管理施設、ボイラー)
		果樹棚	
		加工・作業所	製茶建物、アイス工房、精米プラント
		貯蔵乾燥施設	ライスセンター、タバコ乾燥
		糞尿処理施設	堆肥舎、堆肥化装置
	その他	きのご栽培施設、防霜扇、災害被害修理、柵、売店、スプリンクラー、牛群管理システム	
3	農機具の取得	トラクター	
		田植機	
		収穫用農機具	防除機、掘取機、刈取機、乗用管理機、摘茶機、ハーベスター、スプリンクラー、ホイールローダー
		コンバイン	
		乾燥機	
		選別機	出荷用選別機、包装機、洗浄機
		給餌機	
		搾乳機	
		製茶機	
	その他	農作業以外の機械(籾すり機、精米機、ボイラー、コンベア、ヘリコプター)	
4	運搬用器具の取得		トラック、ワゴン
5	果樹植栽・育成		
6	家畜の購入		
7	長期運転資金		出資金、リース料、権利金、研修費用、開発費
8	農地取得		
9	その他	農業用資材の取得	コンテナ、ほだ木、菌床、防風ネット、球根・苗、育成費、飼料代、短期的なもの、井戸